

環境報告書

2022 ▶ 2023



▲福岡県宗像市 さつき松原整備

Environmental Report



目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR(環境分野)向上への取り組み	

目次

はじめに	3
あいさつ	4
環境マネジメント	5
環境理念	6
環境チャレンジ/SDGs	7
重点取り組み	8
生産環境方針の取り組み状況	9
工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	11
環境異常・苦情ゼロへの取り組み	21
CSR(環境分野)向上への取り組み	22
巻末データ	29

はじめに

閲覧方法

各セクションの
トップに遷移します

こちらのマークは
冊子外(外部接続)に
リンクしています



その他関連ページ

○トヨタ自動車九州 HP

○オールトヨタGreen Wave Project

○いきものMAP

○使用禁止物質リスト

○グリーン調達ガイドライン

○環境報告書 バックナンバー

発行日

2023年9月

対象期間

2022年の環境取り組みを紹介します。

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR(環境分野)向上への取り組み	

あいさつ



生産環境委員会 委員長
次世代・生産企画本部 本部長
長木 哲朗

トヨタ自動車九州(株)(以下トヨタ九州)は、良き企業市民として自治体・地域とコミュニケーションを密に図り、地域社会より信頼され、持続的に成長できる取り組みを進めています。

世界では持続可能な開発目標「SDGs」への関心が高まっており、私たちはトヨタグループの一員としてトヨタ環境チャレンジ2050を通して貢献しています。中でも地球温暖化への対応として『カーボンニュートラル』に向けた動きを加速させています。

トヨタ九州は、2030年にLEXUSのBEV(電気自動車)化に向け、大きな変化に直面しています。設計・開発・調達部門では「新車CO2」「ライフサイクルCO2」、生技・製造部門では「工場CO2」をいずれもゼロにするべく、効率的な生産、設備、運用改善によるCO2低減と再生可能エネルギーの導入推進など社内推進体制を強化しています。

また『循環型社会への貢献、地域共生、CSR向上』として環境異常苦情ゼロ、環境教育、自然共生活動など身近な環境課題へ取り組み、地域社会から信頼される企業を目指しています。

環境問題は時間や国境を越えて地球規模で向き合うべき難しい課題です。これからも人々が安心して住み続けることができる美しい地球を後世に残すため、環境問題を正しく理解し、この町いちばんの工場を目指して今私たちができることを実践してまいります。

本報告書を通じ、私たちの環境への取り組みを理解していただくとともに、皆さまから率直なご意見やご指導をさらなる環境改善に昇華し、信頼される企業を目指してまいります。

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR(環境分野)向上への取り組み	

環境マネジメント

「社会の一員として共に歩み、
心から信頼される企業へ」

1. 地域社会より信頼される取り組み

・環境リスク未然防止

2. 地球環境保全への取り組み

・低炭素社会の構築に向けた取り組み

・循環型社会の構築に向けた取り組み

・環境保全と自然共生社会の構築



宮田工場



刈田工場



小倉工場

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR(環境分野)向上への取り組み	

環境理念

■トヨタ自動車九州(以下トヨタ九州、T M K)は、環境保全の取り組みを経営の最重要課題と位置づけ、「基本理念」「トヨタ地球環境憲章」に基づいて「環境理念」を制定し、全社を挙げてより良い地球環境の実現と地域の繁栄に取り組んでいます。

ト ヨ タ 地 球 環 境 憲 章	<u>I.基本方針</u> ●豊かな21世紀社会への貢献 ●環境技術の追求 ●自主的な取り組み ●社会との連携・協力 <u>II.行動指針</u> ●いつも環境に配慮して生産・使用・廃棄の全ての段階でゼロエミッションに挑戦 (1)トップレベルの環境性能を有する製品の開発・提供 (2)排出物を出さない生産活動の追求 (3)未然防止の徹底 (4)環境改善に寄与する事業の推進 ●事業活動の仲間は環境づくりの仲間(関係会社との協力) ●社会の一員として社会的取り組みへの積極的な参画 (1)循環型社会づくりへの参画 (2)環境政策への協力 (3)事業活動以外でも貢献 ●より良い理解に向けて積極的な情報開示・啓発活動 <u>III.取り組み体制</u> ●経営トップ層で構成するコーポレート企画会議による推進	環境 理 念
	(1)豊かな21世紀社会への貢献 車両の開発段階から積極的に参画し、生産から廃棄の全ての段階でゼロエミッションに挑戦します。 (2)環境技術の追求 トップレベルの新技術の開発と定着に積極的に取り組みます。 (3)自主的な取り組み 環境法規の遵守と地域の環境課題を踏まえた自主的な改善に継続的に取り組みます。 (4)社会との連携・協力 関係会社・地域社会と連携・協力して環境保護に積極的に取り組みます。	

環境チャレンジ/SDGs

トヨタ環境チャレンジ2050 ゼロの世界にとどまらない“プラスの世界”の実現へ



トヨタ環境チャレンジ2050



私たちは、この「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGs*に掲げられた目標・ターゲットの達成に貢献します



* SDGs (Sustainable Development Goals) : 2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016～2030年の国際目標。17の目標と169のターゲットから構成される

2050年までに成し遂げるべき具体的アクションを6つのチャレンジとして宣言

目次	はじめに	あいさつ	環境マネジメント			生産環境方針取り組み状況			巻末データ
			環境理念	環境チャレンジ/SDGs	重点取り組み	工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み	環境異常・苦情ゼロへの取り組み	CSR(環境分野)向上への取り組み	

重点取り組み

◆社会情勢 - SDGs : 国連持続可能な開発目標への取り組み

- 1) 気候変動枠組み条約⇒日本の目標2030年に2013年比▲46%
 - ・世界：CO2濃度史上最高値、このままでは目標をはるかに超える温度上昇
COP26パリ協定実施に必要なルールへの合意
 - ・日本：2050年カーボンニュートラル、地球温暖化対策を経済の発展や豊かな暮らしにつなげる
エネルギー基本計画第6次計画：再エネ30年度に倍増
- 2) 生物多様性条約
 - ・世界：COP15ポスト2020、2030年グローバル生物多様性枠組みの決定
 - ・日本：SATOYAMAイニシアティブの取り組みをさらに発展

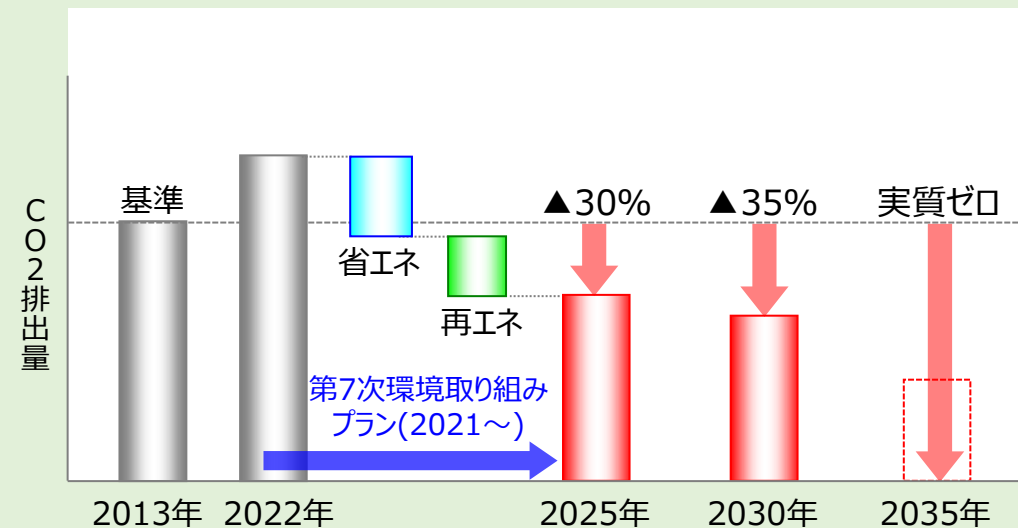
◆トヨタ自動車/オールドトヨタ - 第7次取り組みプランスタート

- 1) 工場CO2ゼロに向けた活動
 - ・CO2削減目標：2013年比2025年▲30%、2030年▲35%に向け活動加速
2035年工場カーボンニュートラル(実質ゼロ)
 - ・再エネ導入目標：2025年15%(電力ベース導入率)
- 2) 自然共生の取り組み
 - ・オールドトヨタ自然共生ワーキング、専用HPによる情報発信

◆トヨタ九州

- 1) 工場CO2ゼロへの取り組み
- 2) 原価低減と両立した環境取り組みの推進

工場CO2ゼロチャレンジ目標



生産環境方針取り組み状況

取り組み内容	結果
■ 省エネ活動推進 ・CO2主任管理者会議継続(2カ月に1回) ・CO2ロードマップ確認会開催 ・革新技術導入(ボデー塗装/バンパー塗装切替)の着実な推進 ・苅田、小倉：2035年に向けた鋳造革新技術の適用検討(電化、水素) ・日常改善の推進 →空調外気負荷低減対策 →塗装エアー低圧化 →ESCO活動によるネタの発掘 →現場運用改善 ・オールドヨタ新規横展アイテムの推進 ■ 再エネ導入推進 ・太陽光発電導入継続 ・2035年に向けたオフサイト再エネ(地熱、太陽光など)の導入検討 ■ カーボンニュートラルに関するその他取り組み ・水素利用拡大に向けたテーマ推進 ・2035年に向けたトヨタ自動車、九大などとの連携による取り組み推進 ・ガスエンジン発電機・ガス冷温水発生器などの水素化の実証検討	■ 省エネ活動推進 ・CO2主任管理者会議：計画通り開催済み ・CO2ロードマップ確認会：計画通り開催済み ・革新技術導入：2022年計画分について実施済み ・苅田・小倉の鋳造の電化/水素化について比較検討完了 ・日常改善の推進 →空調外気負荷低減：2022年計画分について実施済み →塗装エアー低圧化：2022年計画分について実施済み →ESCO：成形アイテム積上げ(192件、1,640t-CO2)、実施済み120t-CO2 →現場運用改善推進：改善提案件数448件（昨年比8割UP） ・オールドヨタ横展リスト進捗率63%→64%（+1%） ■ 再エネ導入推進 ・太陽光発電導入計画：3MW導入実施済み ・オフサイト再エネの検討実施（太陽光、小水力、洋上風力） ■ カーボンニュートラルに関するその他取り組み ・定置燃料電池の開発 ・九大連携による水素水電解装置の長寿命化研究継続およびブルーカーボン検討 ・水素混焼ボイラーの実証計画策定

生産環境方針取り組み状況

取り組み内容	結果
■ 使用量削減への取り組み 1)原価低減とリンクした使用量低減活動 2)第7次取り組みプランに準じた使用・排出量管理 ■ 環境異常・苦情ゼロへの取り組み 1)環境異常、環境ヒヤリの啓発と未然防止の徹底 ・環境月間、連休工事前集会、エコニュースを活用した未然防止の啓発と周知の強化 ・環境ヒヤリ再発防止対策を発生部署と現地現物でフォロー実施、発生抑制を強化 ・オールドヨタ環境違反事例などの横展と再発防止策の徹底 2)工場周辺の臭気調査継続、情報共有 ■ CSR(環境分野)向上への取り組み 1)自然共生/自然と共生する工場の推進 ・九州エリアのグループ会社との協働による自然と共生する工場取り組みの推進 ・行政、地域との協働活動推進 2)環境マネジメントシステムの確実な運用と認証継続 ・内部監査実施、外部審査受審と継続的なスパイラルアップ活動推進 3)啓発/教育の向上 ・社内外周知強化のため活動PR動画をYouTubeなどで配信、DX推進	■ 使用量削減への取り組み 1)各種使用量低減：目標⇒実績 ・廃棄物 : 9.5kg/換台 ⇒8.6kg/換台 ○ ・VOCボデー : 25.46 g/m3 ⇒23.83g/m3 ○ ・VOCバンパー: 268 g/m3 ⇒160 g/m3 ○ ・水 : 2.95 m³/換台 ⇒3.23m³/換台 × ・物流CO2 : 0.1190kg-CO2/t・km ⇒0.1125 ○ ・梱包材 : 644,227 kg ⇒582,046 kg ○ 2)実績管理、工場運営指標報告 ■ 環境異常・苦情ゼロへの取り組み 1)環境違反苦情：目標 新規苦情ゼロ ⇒実績0件 2)工場周辺の臭気測定調査 ・敷地境界上自主調査：実施済 ・臭気計定期測定の実施、豊田合成九州様と協働での調査 ■ CSR(環境分野)向上への取り組み 1)自然と共生する工場づくり ・有木公園指標種の生態環境向上への整備 ・地域環境団体との協働推進（竹灯笼・親子キャンドルづくり） 2)環境マネジメントシステム認証継続 3)地域環境団体と連携した自然共生活性化の動画づくり

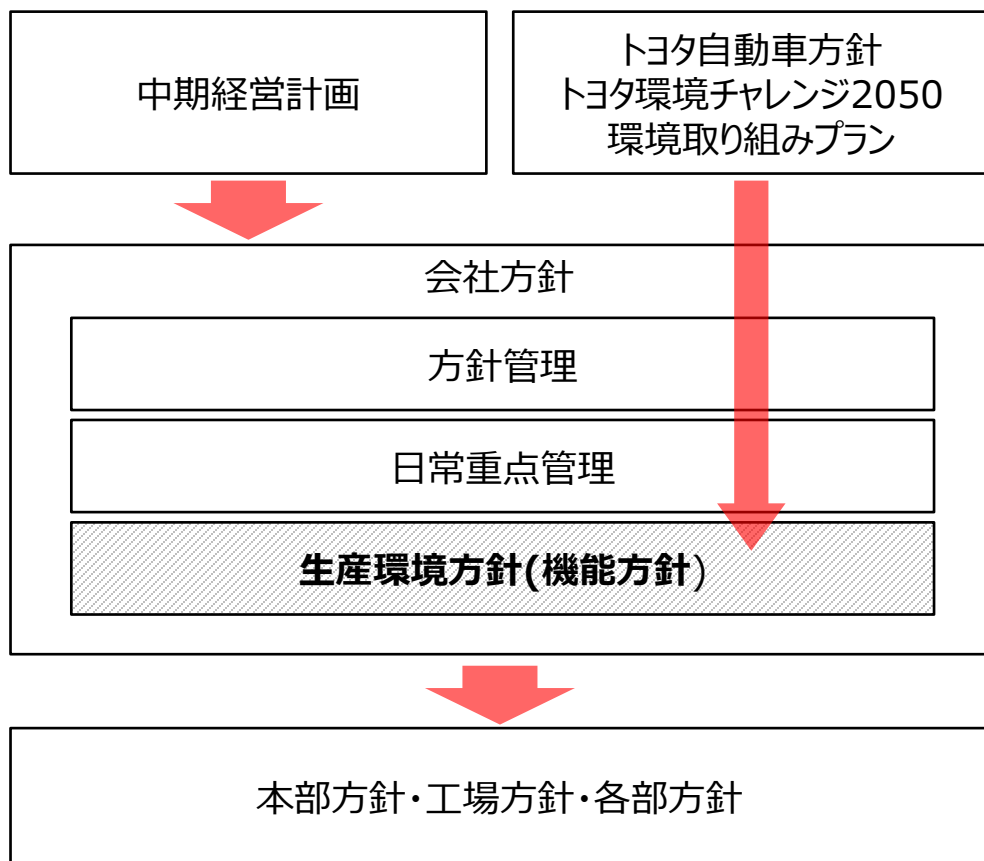


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

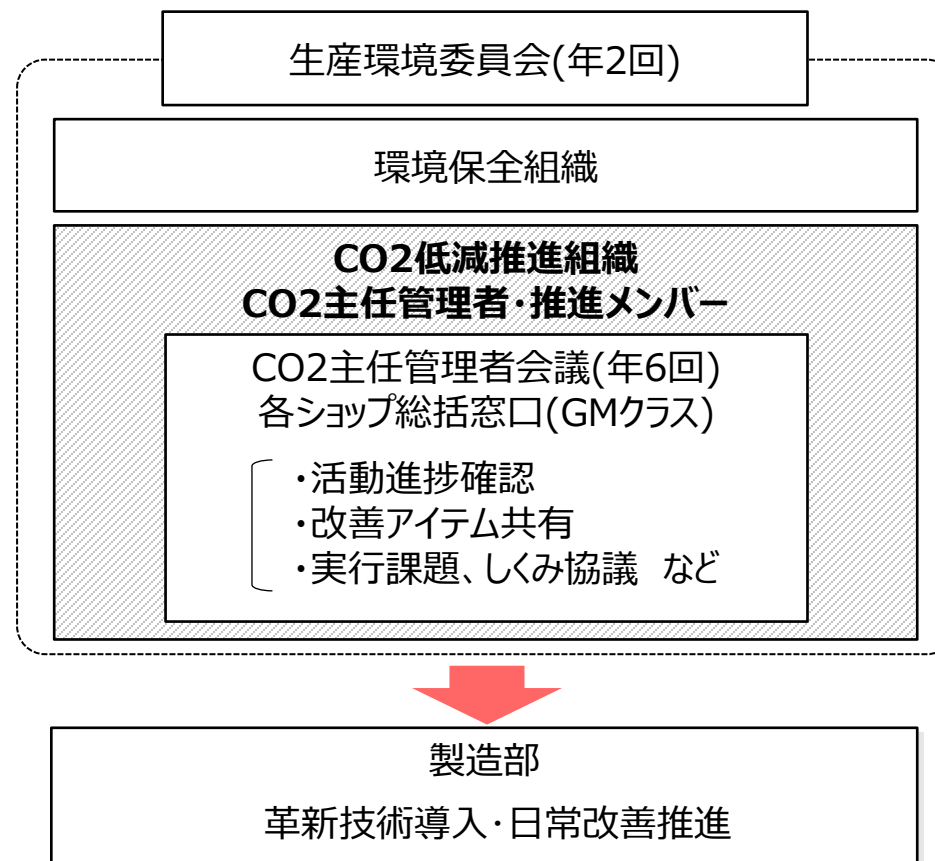
方針体系・社内推進体制



【方針体系】



【工場CO2ゼロチャレンジ推進体制】





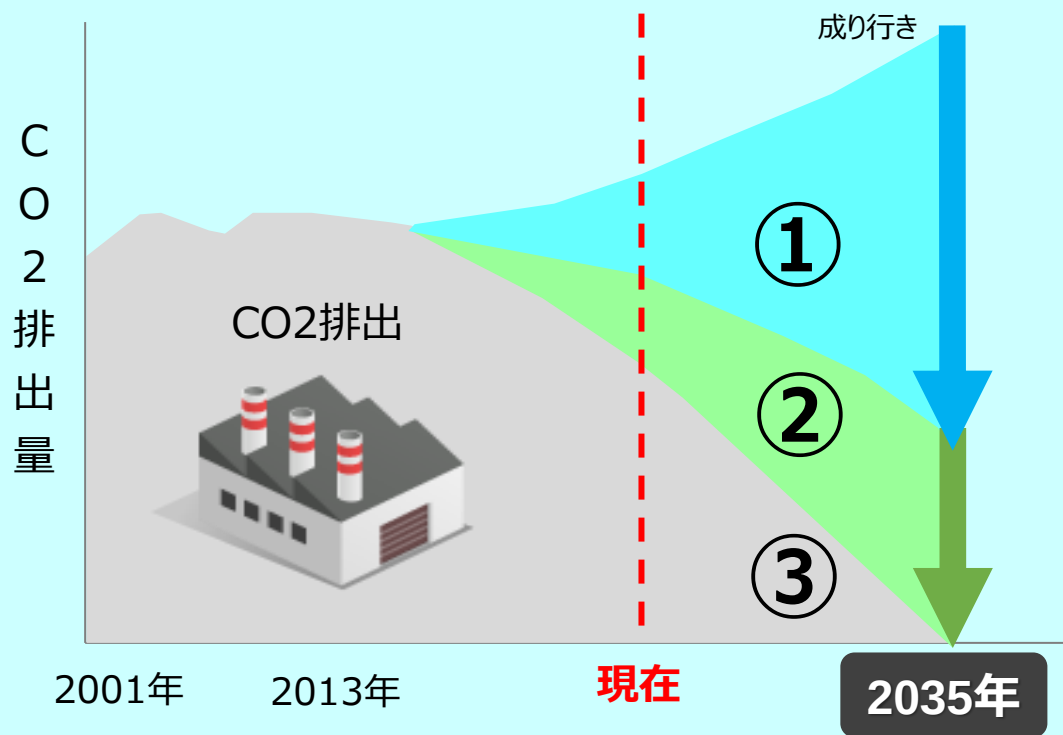
工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

2035年工場カーボンニュートラル達成に向けた方策

【トヨタ九州2035年工場カーボンニュートラルへの方策】

トヨタ九州では、2035年工場カーボンニュートラル達成に向け、全社で取り組んでいます。

目標達成に向けて①省エネ活動②再エネ導入③ガスCO2フリー化の3つの方策を軸に活動を推進しています。



①省エネ活動

- ・日常改善：生産現場を主体とした”6つの心得”による改善と省エネアイテム発掘活動(ESCO活動)の推進
- ・革新技术：生産設備への革新技术導入による大幅なCO2削減

②再エネ導入

- ・オンサイト：工場屋根上の太陽光発電の導入拡大
- ・オフサイト：購入電力の再エネ化

③ガスCO2フリー化

- ・水素活用：水素設備の運用継続と利用設備の拡大検討

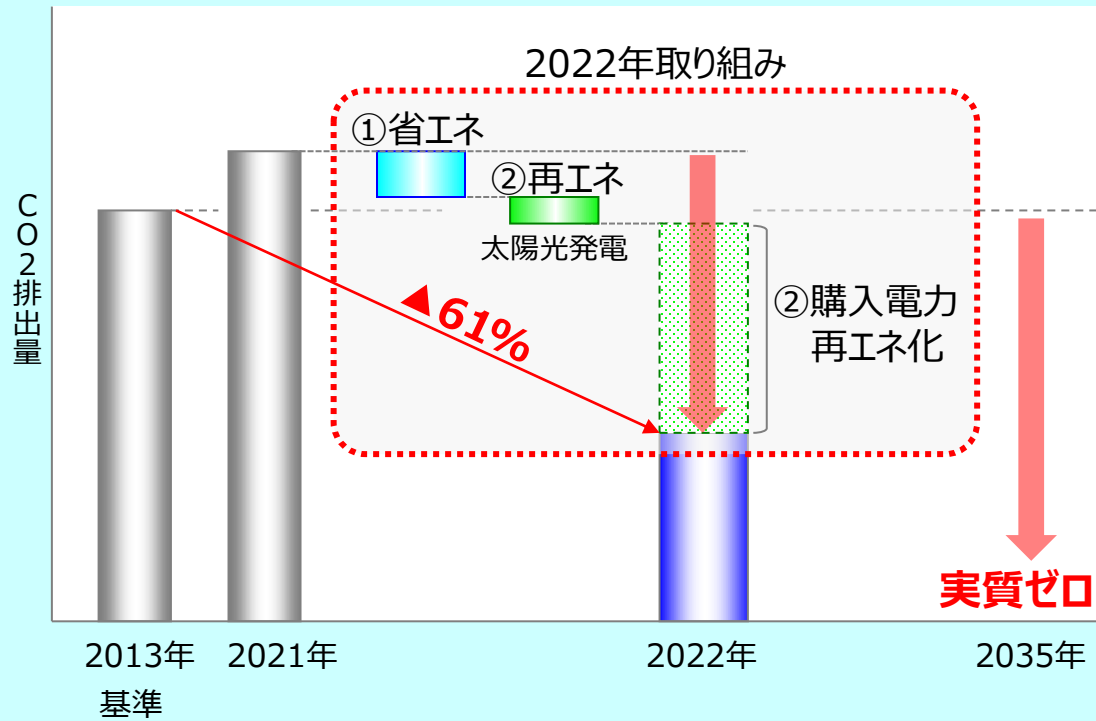


工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

2035年工場カーボンニュートラル達成に向けた方策

【2035年工場カーボンニュートラルに向けた進捗】

2035年工場カーボンニュートラル達成に向け、2013年CO2排出量を基準として、目標を掲げ、取り組みを推進しています。



〈2022年の主な取り組み紹介〉

①省エネ活動

- ・日常改善活動：活動継続中・・・P14
生産現場を主体とした“6つの心得”による省エネ改善活動と省エネアイテム発掘活動の推進(ESCO活動)
- ・革新技術導入：2020年から切替継続中・・・P15
塗装工程の革新技術導入(ドライ化、高効率塗着)

②再エネ導入

- ・屋根上太陽光発電導入：2016年から導入継続中・・・P16
- ・購入電力の再エネ化：2021年期中から購入開始・・・P16

③ガスCO2フリー化

- ・定置燃料電池の開発：2022年～・・・P17
- ・水素混焼ボイラー実証：2022年～・・・P18
- ・水素水電解装置の共同研究：2022年～・・・P19
- ・ブルーカーボンの取り組み：2022年～・・・P20



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

①省エネ活動

【日常改善】

生産現場を主体とした“6つの心得”による改善と省エネアイテム発掘活動(ESCO活動※)を推進しています。

“6つの心得”による改善活動

①ヤメル ②ナオス ③トメル ④サゲル ⑤ヒロウ ⑥カエル

心得① ヤメル この設備は要るかな？

「モーターの動力をやめて、重さを利用して運ぼう！」

心得② ナオス こわれて損していないかな？

「修理すれば、エネルギーの無駄がなくなるぞ！」

心得③ トメル ムダに動いているぞ！

「使っていないときは、止めるようにしよう！」

心得④ サゲル もっと少なくていいのでは？

「全力で動かさず、必要なエネルギーに下げよう！」

心得⑤ ヒロウ 再利用できないかな？

「エネルギーになるものを捨てずに再利用しよう！」

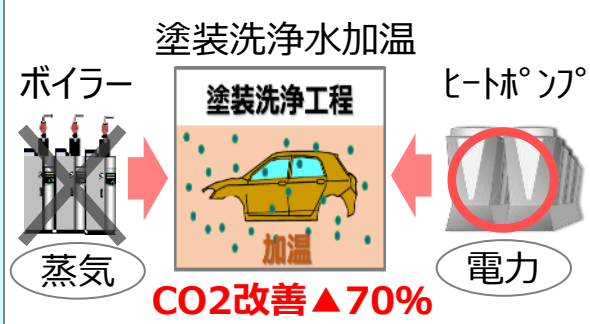
心得⑥ カエル もっと良いエネルギーはないかな？

「効率の良いエネルギーに変えよう！」

<②ナオス：エアリーク対応>



<⑥カエル：蒸気レス⇒電化>



省エネアイテム発掘活動(ESCO活動)

※Energy reduction **S**upport & **C**ooperation(エネルギー低減・支援 & 協業)

2022年から省エネ専門チームを発足させ、アイテム発掘活動を強化

<現地現物による調査>



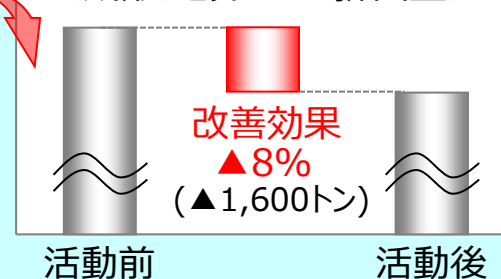
<改善検討ミーティング>



<成形ショップ活動>

- ・送水圧力低減▲21トン
 - ・エアリーク40カ所▲24トン
 - ・放熱ロス低減▲200トン
- など数多くのアイテムを発掘

<成形ショップCO2排出量>





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

①省エネ活動

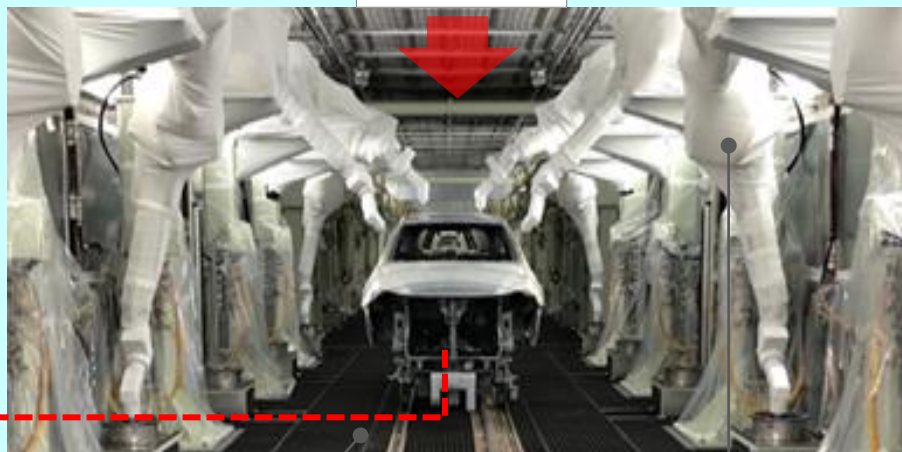
【革新技術】

塗装工程の革新技術（ドライ化、高効率塗着導入）による大幅なCO2削減 ⇒ 塗装工程全体の従来比▲39%
(2020年から継続的に切替実施中)

空調リサイクル化

空調機

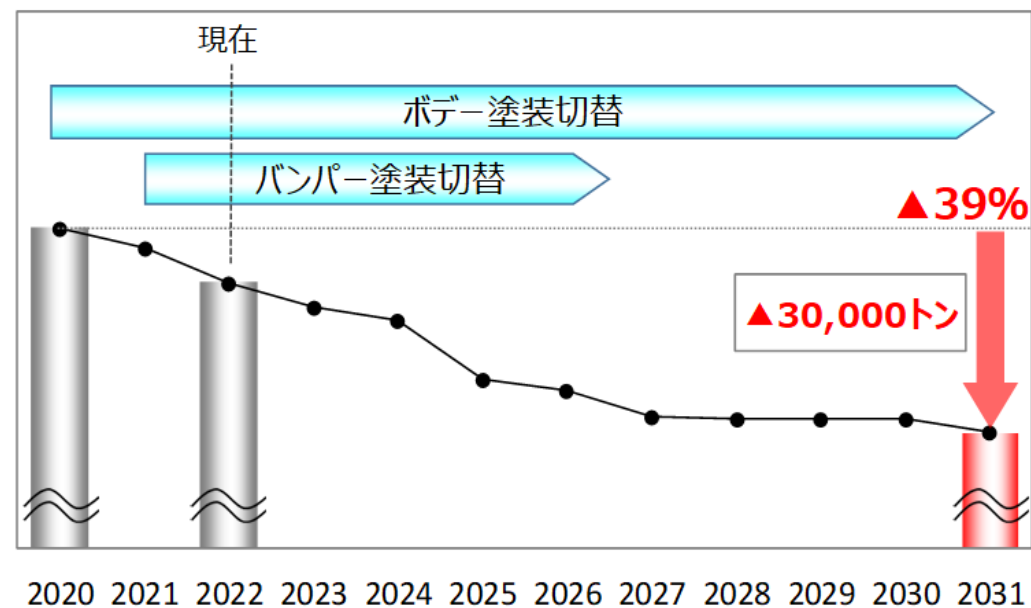
蒸気レス熱源



塗装ブースのドライ化

高効率塗着ロボット

塗装革新技術によるCO2低減





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

②再エネ導入

【再エネ導入】

工場屋根上の太陽光発電導入拡大と購入電力の再エネ化により再エネ導入を推進しています。

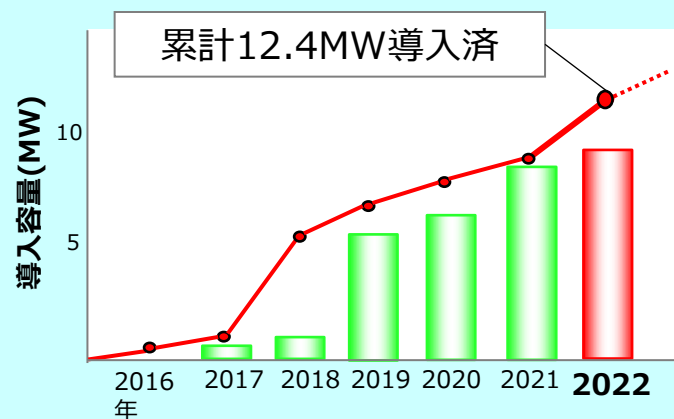
太陽光発電導入



22年設置容量：1.9MW



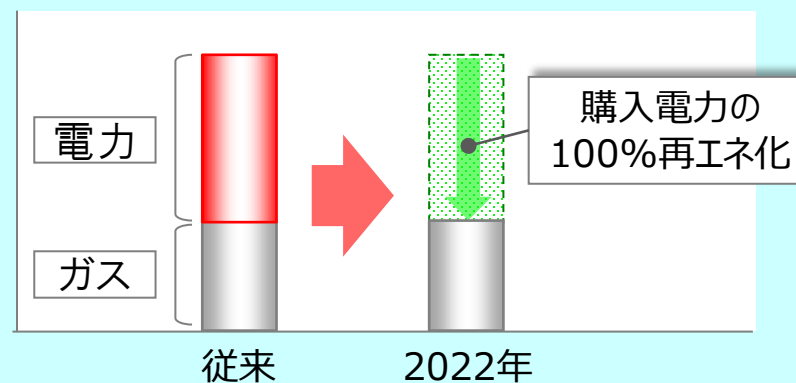
22年設置容量：1.1MW



発電量 (GWh)

2022年実績
 発電量：9,100MWh
 CO2削減：▲3,500トン
 一般家庭 約2,100世帯分

購入電力の再エネ化





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

③ガスCO2フリー化 水素利用拡大に向けたテーマ推進

【定置燃料電池の開発】

将来の再エネ由来水素の利用拡大に向け、MIRAIの燃料電池ユニットを活用した定置燃料電池の開発を推進しています。

開 発

定置燃料電池



再エネ
由来水素

2代目MIRAIの
燃料電池ユニットを活用

2代目MIRAIの
燃料電池ユニットを活用

22年度：試作機完了、23年度：耐久評価予定

電気

用 途

<工場内利用>



<非常用発電機>



<BEVの急速充電>

急速充電器



UX BEV





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

③ガスCO2フリー化 水素利用拡大に向けたテーマ推進

【水素混焼ボイラー実証】

塗装工場で使用する蒸気の生成に、一部水素を混焼させる実証を推進しています(23年度末導入予定)。
水素混焼により水素利用拡大とガスCO2低減を目指します。





工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

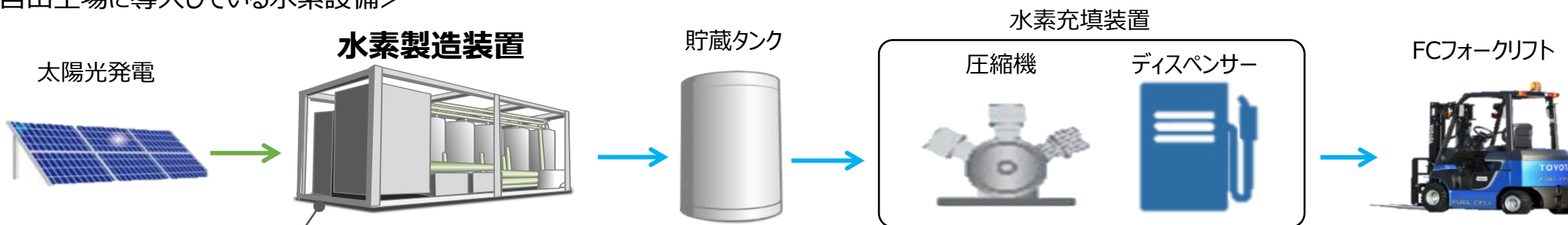
③ガスCO2フリー化

35年カーボンニュートラルに向けた九州大学との連携による取り組み推進

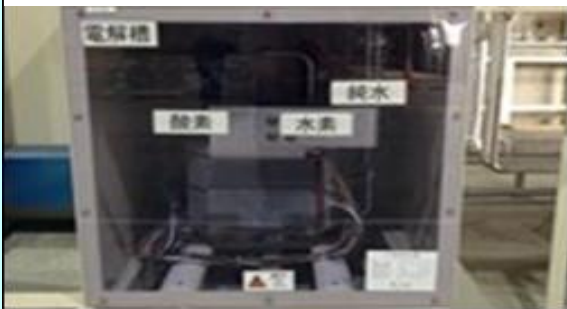
【水素水電解装置の共同研究】

九州大学様と共同で水素製造装置の主要機器である水電解装置の長寿命化に取り組んでいます。

＜宮田工場に導入している水素設備＞

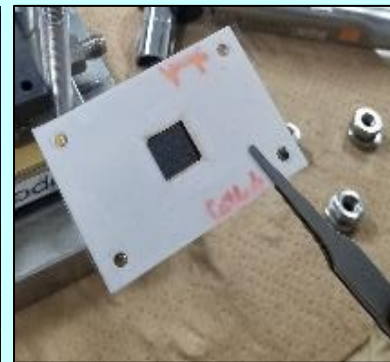
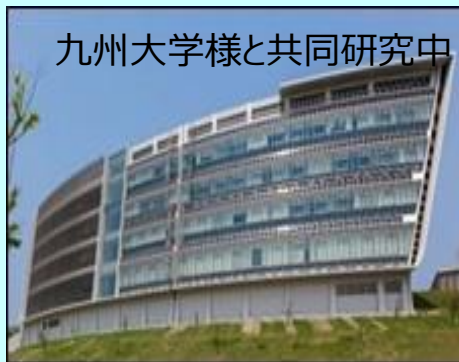


水電解装置



- ・電気と水から水素を生成する装置
- ・長寿命化(コスト低減)により、さらなる水素普及を目指します

九州大学様と共同研究中



- ・22年度は水電解装置の劣化メカニズムを解明しました
- ・23年度は長寿命化の対策を研究します



工場CO2ゼロチャレンジへの取り組み

③ガスCO2フリー化 カーボンニュートラル取り組み

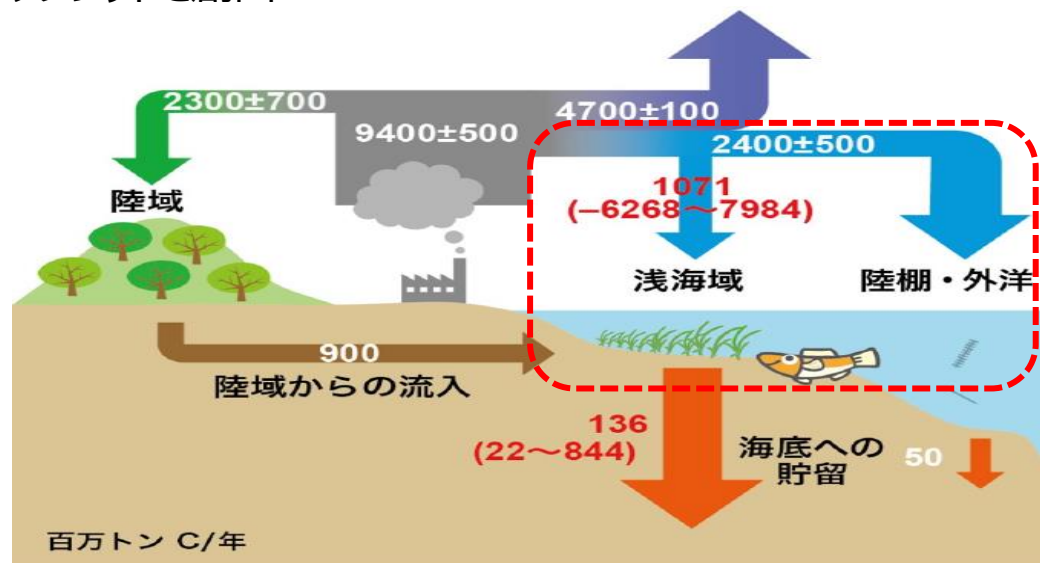
【ブルーカーボンの取り組み】

地元漁業組合様の協力を得て、九州大学様と共同で福岡県福津市津屋崎周辺や岡垣町波津周辺の海域でのブルーカーボン※の取り組みを始めました。

※ブルーカーボンとは：海洋生物の作用によって、大気中から海中へ吸収された二酸化炭素由来の炭素のこと

〈取り組み内容〉

海草・藻などが炭素を貯留することで削減するCO2によりクレジットを創出



1) 現地調査の実施

- ・ドローンを活用した藻場面積・生育場所調査
- ・ドローン調査結果に基づいた潜水調査

2) 藻場再生・保全技術確立

- ・採苗ロープの設置
- ・付着藻類の計測
- ・ロープの改善



温暖化の影響で減少している地元の藻場を再生することで“ブルーカーボン”の創出を目指しています。

環境異常・苦情ゼロへの取り組み

環境違反意識強化と未然防止



【異常処置訓練】

工場からの油や排出物を社外へ漏洩、流出させないように、各部署で緊急事態を想定した異常処置訓練をしています。良かった手順は社内横展、指摘事項は手順を見直し、標準化、訓練を繰り返します。

〈訓練の内容〉

廃油運搬時ドラム缶が転倒、漏洩を想定した訓練の実施



△ドラム缶転倒、
廃油漏洩を想定



△中和剤、ウエス拭き取り



△管理者総評

【仕入れ先様入構前環境教育】

従業員だけでなく、社外関係者など工場で働く全ての人の環境意識を高め、環境異常違反を起こさないように、入構前に環境教育受講をお願いしています。車両の油漏れや、乗車前点検で異常がないことを確認しています。

【作業責任者更新教育など】

工場内で作業する各社の責任者様へ社内の環境取り組み内容を伝えています。伝達内容を社内へ持ちかえっていただき、職場へ周知・展開、工事当日のメンバーへ徹底することで環境違反の未然防止に寄与いただいています。社内外関係者が連携を取ることで環境異常違反が起きないように協力体制を整えています。



CSR(環境分野)向上への取り組み

人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ

【取り組みの基本的な考え方】

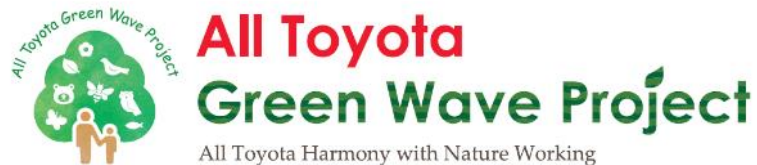
生物多様性の重要性を認識し、トヨタ基本理念に基づいて、住みよい地球・豊かな社会の実現とその持続的な発展を目指し、自動車・新規事業・社会課題への貢献など、生物多様性の保全に取り組みます。



1) 自然共生活動/生物多様性の取り組み

All Toyota Green Wave Project

- 1-1. 自然と共生する工場づくり
- 1-2. 外来生物駆除
- 1-3. 地域と共に自然回復・里山整備の推進



2) 未来づくりへの取り組み

ESD※ Project

2-1. 自然体験などを通じた子どもたちへの学習支援

※ESD
(Education for Sustainable Development) : 持続可能な開発のための教育





CSR(環境分野)向上への取り組み

自然共生活動



1- 1 .自然と共生する工場づくり

【宮田工場周辺の生態系調査・整備活動】

イベント情報	活 動 内 容	協働先
有木公園整備	草刈り、生態系調査	宮若市

- 1) 日程 2022年4月～8月 場所 福岡県宮若市 有木公園
- 2) 参加者 15人



1- 2 .外来生物駆除

【福岡県宮若市と連携してオオキンケイギク駆除活動】

イベント情報	活 動 内 容	協働先
特定外来生物の駆除	オオキンケイギクの駆除	宮若市

- 1) 日程 2022年5月、11月 場所 宮田工場周辺
- 2) 参加者 延べ325人、駆除数89袋





CSR(環境分野)向上への取り組み

自然共生活動/生物多様性の取り組み



1-3.里山整備・自然回復の推進

【自然回復への取り組み】

イベント情報	活動内容	協働先
アダプトプログラム	さつき松原の整備	宗像市

- 1) 日程 2022年5月～12月 場所 福岡県宗像市海岸線
- 2) 参加者 延べ300人、実施回数3回



イベント情報	活動内容	協働先
ビーチクリーン (宗像国際環境会議への参画)	鐘崎海岸の清掃	宗像市

- 1) 日程 2022年10月28日 場所 福岡県宗像市海岸線
- 2) 参加者 20人





CSR(環境分野)向上への取り組み

未来づくりへの取り組み



2-1.自然体験などを通じた子どもたちへの学習支援 【使用済みろうそくの再生を通じて3Rを学ぶ】

【環境にやさしい竹灯籠イベントにMIRAI提供】

イベント情報	活動内容	協働先
キャンドルづくり	親子リサイクル体験	黒丸むらおこしの会様

- 1) 日程 2023年2月5日 場所 福岡県宮若市 清水寺
- 2) 参加者 約30人

※12月開催予定延期分



イベント情報	活動内容	協働先
竹灯籠展示イベント	CO2フリーな電気を提供	黒丸むらおこしの会様

- 1) 日程 2022年12月29日~2023年1月2日 場所 福岡県宮若市 清水寺

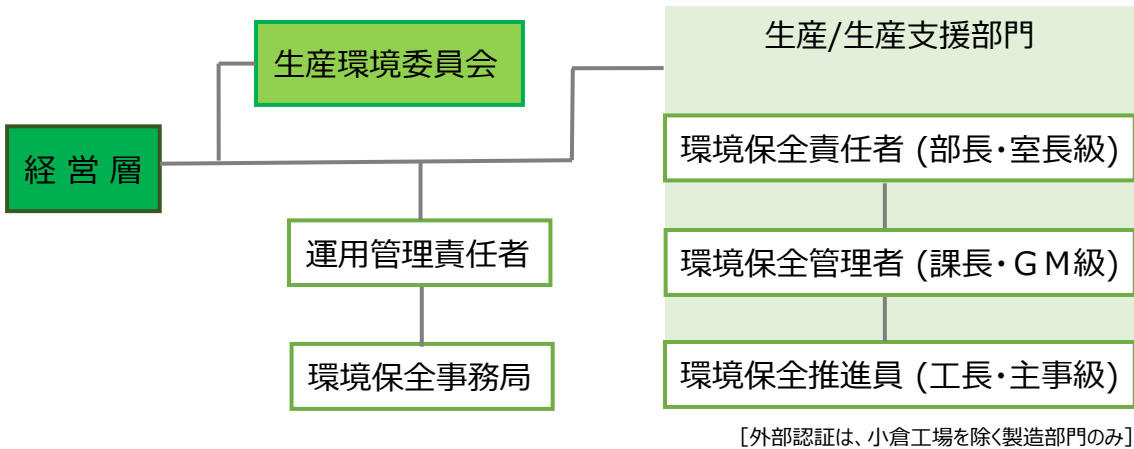


【環境マネジメントシステム(以下EMS)の確実な運用、内部監査実施と外部審査受審】

■ トヨタ九州は役員と部長級で構成する生産環境委員会を設置し、環境目標の審議・決定やEMSの運用状況を確認しています。

■ ISO14001のEMS運営
1998年4月にISO14001を認証取得して以降、EMSのツールを活用した環境保全活動の継続的な改善に自主的かつ積極的に取り組んでいます。
2018年2月に「ISO14001:2015版」の認証登録を完了し、事業と環境との課題を解決するべく両者を統合した活動を進めると同時に、目まぐるしく変化する社会に対応した戦略的な環境経営を目指しています。また、生物多様性や自然共生の取り組みなど地球環境保全に貢献していきます。

【環境保全組織体制】



■ 環境内部監査
ISO14001規格の要求事項に対してトヨタ九州のEMSが有効に運用されているかを確認するため、定期的な環境内部監査を実施しています。監査員の養成は環境マネジメントマニュアルなどを用い、外部機関の講師による実践的な教育訓練を実施しています。

環境経営

CSR(環境分野)向上への取り組み

啓発/教育による従業員エコマインド向上

【環境イベント動画 YouTubeで社外発信】

地域の皆様や従業員、関係者の方々へトヨタ九州の自然共生活動を知っていただけるように、YouTubeでイベントごとの動画を配信しています。「地域をつなぐ」活動の一環で、福岡県苅田町等覚寺(かんだまちとかくじ)地区の里山保全の様子や地域を盛り上げる団体の皆様と開催した座談会の様子もご覧いただけます。



活気のある、地域づくり・人づくり
ー竹灯籠イベントを通じてー



町から一番近い天空
等覚寺(とかくじ)をみんなの故郷に



想いをつなぐ
宗像の離島の地域課題に向き合う

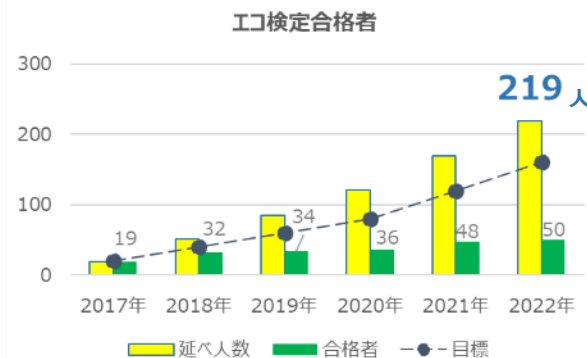


トヨタ九州 環境チャンネル

👉 いいね！とお気に入り登録もお願いします！

【社内外教育の推進】

■eco検定※の取得推進



※eco検定：環境に関する幅広い知識を獲得できる。

従業員の環境への関心・理解を深め、アクションにつなげることを目的として「環境人財づくり」を推進しています。「幅広い環境知識の習得に役立った」と、受験した従業員の環境意識も向上しています。

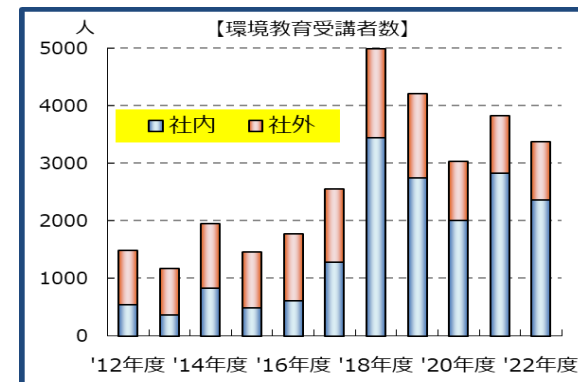
トヨタ自動車九州株式会社

(福岡県・宮若市) 輸送用機械器具製造業

東京商工会議所エコ検定サイト内
「eco検定推進企業」としてトヨタ九州の紹介も掲載中！

■階層別・仕入先様など

環境の取り組みに関する各種教育を社内外で実施しています。社内では階層別教育、構内で作業する社外の方へは周辺環境や構内での注意事項などについて伝達教育を実施しています。



環境経営

CSR(環境分野)向上への取り組み

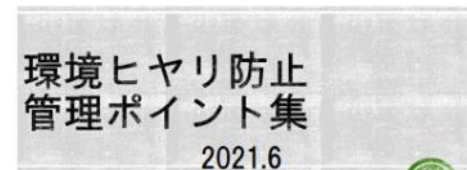
啓発/教育による従業員エコマインド向上

【地球環境月間】

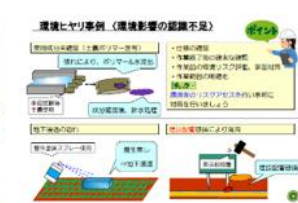
毎年6月を『トヨタ地球環境月間』と位置づけています。
環境への関心・理解を深め、自発的に考動できる人づくりを掲げ、環境異常を起こさないように資料を使った学習機会を設けるほか、省エネ体験会を開催しました。

〈環境異常未然防止資料〉

地域環境を守るため、環境異常を発生させない取り組みの一環で、作業の注意点をまとめた事例集や油漏れチェック方法を展開しました。



リスクが高いヒヤリとは？



- ①車の下を覗いてみよう！
- ②何のシミか確認しよう！



【考えられる主な要因】

- I：エアコンの除湿水のもれ
⇒無色、さらさらして水っぽい
⇒助手席の足元あたりからのもれ
- II：オイルのもれ
⇒ギラギラした色、ベタベタする
- III：冷却液のもれ
⇒ピンク色又は緑色など、さらさらしている
⇒ラジエーターの下あたりのシミ

※ II と III の場合は速やかに修理をお願いします

ESCO体験会 **NEW!**

工場CO2ゼロ実現に向けた社内の省エネ意識向上を目的とし、CO2日常改善の一つの柱である『ESCO活動』について、見て・知って・体験する体験会を開催しました。

◎エアーの使い方体感



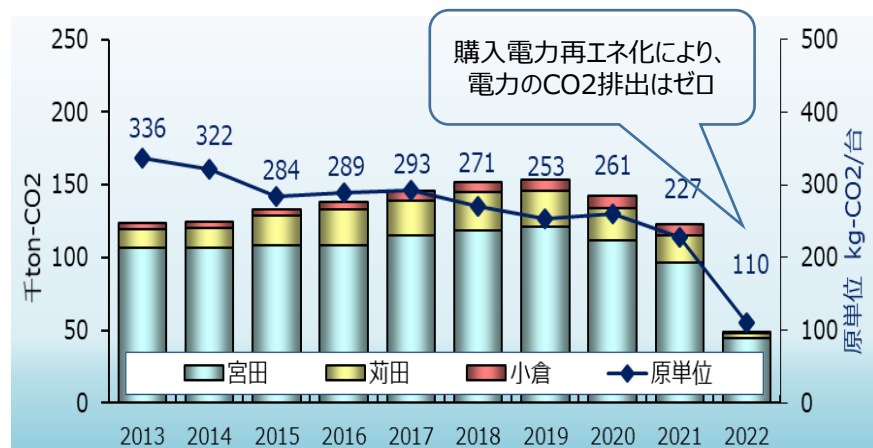
◎エアブローのムダ体感



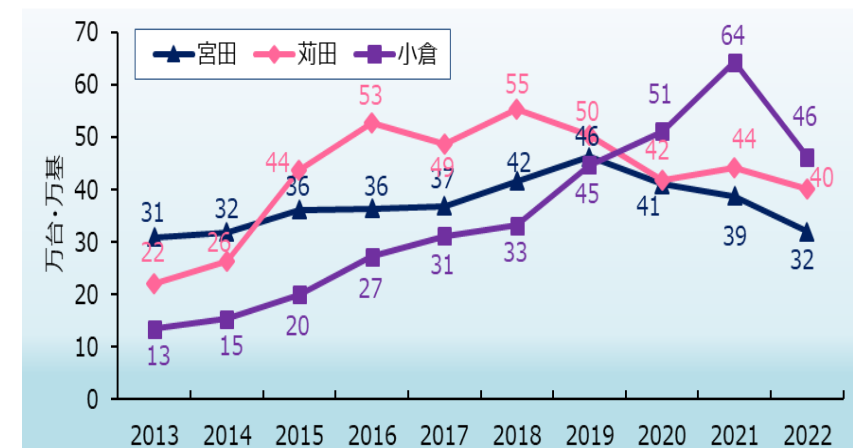
ESCO活動：Energy reduction Support & Cooperation（エネルギー低減・支援&協業）

巻末データ

[CO2排出量の推移(Scope1・2)]



[車両・エンジン・ハイブリッド部品生産数の推移]



[廃棄物 (※) 排出量の推移]

(※) 全て逆有償リサイクル処理



[VOC排出量の推移]

